

『Mind Charging』

第 86 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 7 月 22 日

映画『きみはいい子』の名言



私があの子に優しくすれば、あの子も他人に優しくしてくれるの。

子どもを可愛がれば、世界が平和になるわけ。

私はこの作品を見たことがなく、作品のあらすじを見てみると、テーマとしてはショッキングな部分も含まれているような内容のようですが、ストーリーとは関係なく、この言葉(セリフ)を見つけた時に非常に心に刺さる感覚がありました。

『情けは人の為ならず』ということわざがありますが、その発展版のような言葉です。世界平和だけでなく、願望を持つことは人として自然なことだと思いますが、実際に行動に移すことや、自分が最初に行動することは勇気が要ることだと思います。今回の言葉はセリフということもあり、『やってみたら意外と簡単だよ!』という柔らかさのある応援メッセージにも感じ取れます。ほんの少しの勇気が繋がり、とても大きな愛情に成長することで世界は本当に平和になっていくような気がします。

様々な分野で研究が進んだおかげで、非常に便利になりましたが、そういった高度な技術を悪用して戦争が起きたりします。世界中の多くの人々の愛情を利用した事件も起きたりします。目の前の材料をどう活用するのか。その選択が世界を変えらる言っても過言ではありません。一番進化しないといけないのは私たちの精神なのかもしれません。

(編集委員：入試広報室 鈴木)

『きみはいい子』(きみはいいこ)は、中脇初枝による日本の連作短編集。児童虐待を題材に書き下ろし、2012年5月20日にポプラ社より刊行された。どこにでもある新興住宅街を舞台に、育児放棄や児童虐待を“される側”のみならず“する側”の問題にも焦点を当てて描く。第28回(2012年度)坪田譲治文学賞受賞作。呉美保監督により映画化され2015年に公開された。2010年の大阪2幼児置き去り死事件をきっかけに執筆された児童虐待をテーマとした作品。語り手は章ごとに異なるが、共通して描かれているのは区内最大の児童数を有し、窓から富士山が見える開校40周年間近の桜が丘小学校や、“パンダ公園”と呼ばれる烏ヶ谷(うがや)公園がある桜が丘という町での出来事。どこにでもあるような谷を埋めた新興住宅街を舞台に、重いテーマを扱いながらも全ての作品が誰かの思いやりや言葉によって光がもたらされる優しい結末となっている。これには、人間どんなことが起こったとしても、同じ日・同じ時間・同じ場所にいる誰かがほんの少し関わるだけで、救ったり救われたりする可能性があるということを示したいという著者の思いが込められている。(Wikipedia 参照)